

## 生活自立支援キャンプ I (児童養護施設の子ども支援事業)

## ～わくわくチャレンジキャンプ(佐賀)～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

〔協力〕長崎バイオパーク

〔期日〕令和4年8月10日(水)～12日(金)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家、長崎バイオパーク

〔参加者〕社会福祉法人済昭園 32名(児童・生徒21名、職員11名)

〔講師〕末竹 純(長崎バイオパーク飼育展示課 学芸員)

〔担当職員〕小野 栄策、宇都 志津佳、稲原 涼馬

## 1)趣旨

児童養護施設の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊感情を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。

## 2)目標

- ①自然体験や生活体験の中で児童・生徒ができた活動や、自分ができることを見つけることができる。
- ②自然の中で体を動かすことで体力の向上を図る。
- ③早寝早起き朝ごはんなど、規則正しい生活を送ることができる。

## 3)プログラム

1日目	2日目	3日目
8:00 集合(済昭園)	6:30 起床	6:30 起床
8:30 出発(バス移動)	7:00 朝食(レストラン)	清掃・荷物整理
仲間づくりゲーム	9:00 沢登り 【写真⑥】	8:00 朝食(レストラン)
【写真①】	12:00 昼食(弁当)	9:00 出発
12:00 昼食(レストラン)	14:00 洗濯	(バス移動)
13:00 ハイキング【写真②】	リラックスタイム	10:30 バイオパーク到着
14:00 葉っぱのスタンプ	15:30 夕食(野外炊事)	特別プログラム
【写真③】	【写真⑦】	【写真⑨】
15:30 夕食(野外炊事)	19:00 キャンプファイヤー	12:30 昼食(弁当)
【写真④】	花火 【写真⑧】	自由散策
19:00 ナイトハイク	20:00 入浴	14:30 バイオパーク出発
【写真⑤】	一日の振り返り	(バス移動)
20:00 入浴	【写真⑩】	16:00 解散式(済昭園)
一日の振り返り	21:30 就寝	
21:30 就寝		

#### 4)事業展開

##### ① 仲間づくりゲーム



施設の宿舎がそれぞれ違うため、子供達同士の交流がありません。そこで、簡単なゲームを行い、親睦を図りました。最初は、なかなかグループの輪に入れない子もいましたが、時間が経過するにつれて会話が生まれるようになってきました。

##### ③ 葉っぱのスタンプ



森で集めてきた葉っぱや花にペインティングして、世界に一つだけのトートバッグを作りました。色や模様、葉っぱの配置を考えながら意欲的に思い出の作品を作っていました。完成したバッグは、さっそくこの後の活動に活用する姿が見られました。

##### ⑤ ナイトハイク



夜道を懐中電灯1つで歩く経験をしました。きれいな星空も見ることができ、とても感動しました。明かりのない中で活動するたいへんさを感じ取っていました。

##### ② ハイキング



森を歩きながら珍しい昆虫や草花を探しました。集めた葉っぱはこの後のクラフトに使用しました。最後に、アスレチックで遊びました。年上の子供達が遊具の使い方を教える姿はとても頼もしかったです。

##### ④ 野外炊事(カレー作り)



カレー作りを行いました。グループで話し合っ て役割分担を行い、火起こしなど失敗しても諦めることなく頑張る姿が見られました。年少の子供達も、野菜を切ったり洗ったりして、安全に気を付けながら活躍の場を持つことができました。

##### ⑥ 沢登り



高学年、低学年に分かれて沢登りに出かけました。前回のキャンプでは、恐怖心からか水に入れない子供も多かったのですが、水に浮いたり、滝に打たれたりして楽しむ姿に成長を感じました。終了後、濡れた洋服を洗濯し、干してたたむまでを経験できました。

⑦ 野外炊事(バーベキュー)



カレー作りの経験を生かして、まき割や火起こし、調理までを行うことができました。

⑧ キャンプファイヤー



火を囲んで、ゲームや花火をしました。火を見て心を落ち着かせ、キャンプを振り返る良い機会となりました。

⑨ 長崎バイオパーク



はじめて動物園を訪れた子供達も多く、身近でエサを与える体験に感動していました。決まったお小遣いで、お土産を購入する経験も効果的でした。

⑩ 振り返り



活動ごとに班で、振り返りを行いました。出た意見は、模造紙にまとめ施設に掲示してもらうようにしました。回を重ねるごとに、たくさんの意見が出るようになりました。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
94%	6%	0%	0%

② 参加者の声

- ・班で協力して1つのことをなすとげる達成感を味わうことができました。
- ・普段はあまり交流しない子供たちが、楽しそうに一緒に活動出来てよかったです。
- ・沢登り、動物との触れ合い、野外調理などはじめての経験ができて、とても楽しかったです。

6) 成果と課題

① 成果

- ・施設では見ることのできない、子供達自身が主体となって頑張る姿がたくさん見られた。昨年度から継続してキャンプを行ったことで、子供達の成長を感じることができた。
- ・プログラム内容に余裕を持たせることによって、十分な活動時間を確保し、子供達同士や施設職員、スタッフとのかかわりがたくさん生まれた。

② 課題

- ・施設職員との打ち合わせを十分に行い、子供との関わり方やプログラム内容について共通理解を図る。一緒にプログラムを考えていきたい。



## 目標2 飢餓をゼロに

野外炊事を通して、安全な調理の仕方や楽しい会食の雰囲気づくりを学びます。



## 目標4 質の高い教育をみんなに

動物と触れ合う体験を通して、人と動物が共生する社会を目指します。